



FÛ EN
楓園

CONTENTS

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1 — 特集 「楓園」50号の歩み | 7 — 中高部 NEWS |
| 5 — 東洋英和幼稚園 NEWS・小学部 NEWS | 9 — 大学 NEWS |
| 6 — かえで幼稚園 NEWS・学院 NEWS | 11 — 英和の植物通信・お知らせ |



「かえで幼稚園クリスマスの夜」 絵：かえで幼稚園おはなしの会有志

■ クリスマスの喜びがそれぞれの家庭に届きますように
クリスマス礼拝の帰り道、4・5歳児の子どもたちは、ガラスびんで作ったカンテラに火を灯して家路につきます。クリスマスの希望の光が各家庭に灯りますようにとの、祈りをこめて…
大学付属 かえで幼稚園

「楓園」50号の歩み

何事にも時があり

天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

生まれる時、死ぬ時

植える時、植えたものを抜く時

殺す時、癒す時

破壊する時、建てる時

泣く時、笑う時

嘆く時、踊る時

石を放つ時、石を集める時

抱擁の時、抱擁を遠ざける時

求める時、失う時

保つ時、放つ時

裂く時、縫う時

黙する時、語る時

愛する時、憎む時

戦いの時、平和の時。

コヘレトの言葉 三章一〜八節

創刊号 新しい飛躍

—東洋英和女学院横浜校地—

第2号 時代に生かす敬神奉仕

中高部

第3号 四年制女子大学設置に關して

—大学設置準備室—

第4号 【表紙】

短期大学プレイデー

第5号 プリンセスエドワード島に見る英和のこころのルーツ

—英和のこころのルーツ—

第6号 東洋英和女学院大学入学式式辞

—式式辞—

(※大学初めての入学式)

第7号 「五番街」より「ラドー」語学研修所をこよなく愛した英和生！

—短期大学—

短期大学

学院報「楓園」は今号で五〇号となりました。

学院各部がお互いの近況を共にし、同じ東洋英和の一員としての気持ちを常に持ち続けようとの思いから刊行された「楓園」。その歩みは時代ごとの東洋英和女学院の生きた歴史を語っています。表紙とともに、各号の記事の中から主なものをピックアップしてみました。

「楓園」が創刊された一九八六年からの東洋英和の変遷が見えてきます。



4号



創刊号



5号



2号



6号



3号

学院をつなぐ「楓園」

「楓園」創刊当時の院長・学長でいらした田島信之先生が「楓園」誕生の経緯とその役割について次のように語っていらっしゃいました。



学院報「楓園」の創刊にあたって

院長・学長 田島 信之

東洋英和女学院の設置している二つの幼稚園、小学部、中学部、高等部、短期大学は、それぞれ「学報」や「母の会だより」等を定期に刊行していますが、それ等に加えて全学院の学報の刊行が以前から要望されていました。

それに応えて、代表者会議の議を経て発足した、小谷常任理事を委員長とする学院報編集委員会の非常な努力により、今般ようやく学院報が東洋英和にふさわしい「楓園」と名づけられて創刊されるに至ったことを誠に喜ばしく思います。

東洋英和女学院の各部が学院創立第二世紀へ向ってそれぞれ、どんなビジョンを掲げて、どの様な歩みをしているか、また、いかに成長し充実し、変化しつつあるか、或は、それぞれがいかなる問題を持ち困難と戦っているのかなど、ありのままの姿が学院報「楓園」によって全教職員のみならず関係の父兄、同窓生の皆様に理解して頂けることを大いに期待しております。

楓園創刊号より

- 第8号 横浜校地チャペル建設の
実現 大学
- 第9号 野尻キャンパスサイト二〇
年の歩み 中高部
- 第10号 かえて幼稚園十八年の歩み
原点を見つめる時
—ブラックモア先生の折り—
幼稚園
- 第11号 小学部の夏期学校
消え行くものと受け継が
れたもの—校舎今昔—
(※旧校舎の建て替えが決まった
頃の記事です) 中高部
- 第12号 カナダへの懸け橋
—カナダ学習旅行の計画と実行—
中高部
- 第13号 八〇周年に思うこと 中高部
- 第14号 学院創立百十周年に寄せて
学部改組になって
—女子学生たちへの期待—
幼稚園
- 第15号 野尻キャンパス近況 大学
- 第16号 新校舎完成に際して 中高部
- 第17号 新装なった追分寮
校外教育施設委員会
中高部
- 第18号 中高部大講堂にパイプオ
ルガン設置 中高部
- 第19号 生涯学習にのり出す
(※生涯学習センターが開設)
大学



19号



16号



13号



10号



7号



20号



17号



14号



11号



8号



21号



18号



15号



12号



9号

「楓園」50号までのいろいろ

「楓園」というタイトル

毛筆のロゴは中高部の書道の非常勤講師をしていらした佐々木梢先生によるものです。校歌の歌詞「楓よ 楓の園」からの命名です。

「楓園」のスタイル

創刊当時はB5版でしたが、30号の頃から読みやすいように大きさを換えようという提案があり、41号から現在の大きさになりました。全頁フルカラーになったのは34号からです。

「楓園」に登場した卒業生

鳥飼攻美子 (28号)、神津十月 (29号)、阿川佐和子 (30号)、中村福助 (幼稚園卒。36号)、中村橋之助 (幼稚園卒。37号) など。「楓園」では今

後も様々な分野で活躍されている卒業生に登場していただく予定です。

「楓園」を読むには

現在、在校生・教職員には全員配布、同窓生にはご希望の方に3年間分の送料 (2,000円) をご負担いただいております。また、学院内各部・各センター事務所、各種催しにて配布しております。44号以降は学院のホームページからデジタルページメディアとしてご覧いただけます。
(学院ホームページアドレス <http://www.toyoeiwa.ac.jp/>)

【同窓生定期購読お問い合わせ先】 東洋英和女学院同窓会まで。または郵便振込口座番号00120-7-297919 加入者名・東洋英和女学院同窓会楓園口に2,000円をお振込みください。お名前 (旧姓も)、ご住所、卒業年度を必ずご記入ください。

- 第22号 創立二十五を迎えて
かえて幼稚園
保健センター開設！
保健センター
- 第23号 東洋英和のホームページ
（※六本木校地学院ホームページ開設）
- 第24号 赤坂発、一年生
（※新校舎建築中、赤坂に仮校舎がありました）
健康増進の拠点 アクア・エクササイズ・センター完成
大学
- 第25号 第一印象
First Impressions
リンダ・ボール
中高部
- 第26号 新図書館の開館に際して
大学
- 第27号 オーストリア文化勲章を
いただいて 学長 塚本哲也
大学
- 第28号 新校舎完成
小学部
- 題29号 【表紙】
大学オリエンテーション合
宿参加学生の感想文より
小学部の情報教育について
ユニークな課外特別授業
（※ピアノ科、華道科、器楽科
等の紹介）
中高部
- 第30号 中学部2回入試について
本部・大学院棟完成
（※旧短大講堂の場所に現在の建
物が建ちました）
- 第31号 新教科「情報」について
中高部



「楓園」をつくっているのは？

「楓園」は学院報編集委員会で編集しています。東洋英和幼稚園・小学部・中高部・大学・かえて幼稚園・法人本部広報室から1～2名ずつ選ばれた編集委員の教職員が集まり、編集会議を開いて特集内容やページ構成について協議します。そののち各管内で「これは！」と思う出来事や行事を委員が取材したり、関連部署に執筆をお願いするなどして原稿を持ち寄ります。

集められた原稿や写真は広報室でまとめられ、印刷会社の方に手渡され、誌面がデザインされていきます。何度か校正をしてデータ入稿、のち納品され、各部事務所で配布作業が行われて皆様のお手元に届きます。



現在の学院報編集委員会（委員長：寺澤東彦先生）。ここでいろいろなアイデアが出ます。



大日本印刷の方々や打ち合わせ。プロの技で「楓園」が形になっていきます。

- 第35号 中高部新グラウンド
(※グラウンドが広く使いやすくなりました)
- 第36号 建学の精神と東洋英和女学院
- 第37号 【表紙】 小学部入学式
開学一五周年記念式典式辞 大学
- 第39号 創立一二〇周年記念特集号
- 第40号 カナダ首相夫人の来校
第一回高等部聖書科沖縄学習旅行
- 第42号 ミス・カートメル墓石除幕式に臨んで
- 第43号 カナダからの宣教師
- 第44号 小学部のパイプオルガン
- 第45号 ピアノ科一二〇年の歩み
- 第46号 大学改革
- 第47号 理事長対談
— 日野原重明先生と語る —
- 第48号 生涯学習センター一〇周年
特集Ⅰ
- 第49号 新体制始動 鼎談「東洋英和の未来を語る」
特集Ⅱ
野尻キャンパスサイト
楓園五〇号の歩み
- 第50号

(※印は広報室による脚注です)



49号



46号



43号



40号



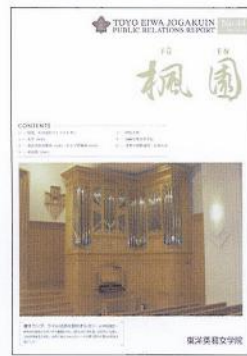
37号



50号



47号



44号



41号



38号

在庫のあるバックナンバーが若干ございます。
学院広報室(直通)
電話 03-3583-3457
FAX 03-3583-3477
メールアドレス
koho@toyoeiwa.ac.jp
までお問い合わせください。



48号



45号



42号



39号

「楓園」リニューアルのお知らせ

「楓園」は50号発行を機に、さらなる内容の充実を図るため51号よりページ数を現在より4ページ増やします。リニューアルにあたっては教職員や同窓生の方々にアンケートにご協力いただき、たくさんの貴重なご意見をいただきました。

「楓園」の誌面デザインへの要望や今まで面白かった記事、これから掲載してほしい記事にはじまり、「楓園」が学院全体の広報の中でどのような役割を果たすべきかについて非常に示唆に富んだ指摘が多数ありました。その結果を反映し今後の方針を検討していきます。

特集や各部のお知らせに加えて取材記事等も増やし、見るだけでも楽しめる写真を多用した誌面、キリスト教学校としての教育方針を紹介する記事、学院の日常や教育現場の様子がよく伝わるような記事を展開し、卒業生についても積極的に紹介していきます。今後とも「楓園」が「英和らしさ」を大切に、東洋英和に連なる方々のよき情報共有の場となり、学院への思いをひとつにつなぐ情報誌となるよう皆様のご協力、ご意見をよろしくお願いいたします。

季節を彩るボード

幼稚園の保育室の正面と左右の壁に、私達教師が『ボード』と呼ぶ壁面があります。季節ごとに教師と子ども達の手によって飾られます。その雰囲気は年を重ねても変わることがありません。代々受け継がれている大切な

ことは、キャラクターなどを用いず自然であること、子どもの作品が活かされるものであることです。季節を意識したり、その時の子どもの興味を活かすなど、テーマは各教師に任されています。



2001年 春

毎年3月には次にやってくる子ども達のためにボードを変えます。この保育室に新しくやってきた子ども達はたんぼの綿毛と一緒に飛ぶお兄さんやお姉さんに迎えられました。



2007年 夏

くじら組には大きくくじらが泳いでいます。くじらの体は子ども達の手形できれいに色づけられました。

1997年 秋

上田市にあるりんご園の遠足から帰ってきた年長組がおいしいりんごを描きました。子どもの目には特別大きく見えたようです。



1980年 冬

アドヴェントの時期は保育室のボードだけではなく、幼稚園中がクリスマスの飾りにあふれます。この保育室には暖かい馬小屋ができました。

この度、三年生の「追分の生活」に高三が二名、大学四年が二名の四名で参加させていただきました。どの児童も元気で、それぞれに沢山の思い出を作り、楽しんでる様子を目の当たりにする事が出来ました。また、彼女達の底知れぬパワーに圧倒されながらも、可愛い後輩と共に過ごす事が出来た二泊三日は、私にとっても充実した楽しい時間でした。



児童と共に生活する中で、自らの追分での思い出がいくつも甦りました。キャンプファイアー、鬼押し出しへの遠足、野外炊飯…。どの記憶もおぼろげではありますが、どれも楽しかった事として残っています。このような体験

を小さい時から出来る環境にいられた事を、改めて感謝した時でもありました。共同生活では「他者への思いやり」が重要になります。それは、人として生きる上で持ち続けなければならないものです。しかし、日々忙しく過ごしていると自分の事で手一杯になってしまい、忘れてしまいがちなものでもあります。けれども英和生は、いかなる時も他人を思いやり、感謝する事が出来る人が多いと感じています。これは、「東洋英和」という環境で生活する事により、自然と身に付くものではないかと思えます。今回の追分寮でのさまざま体験は、長い英和生活から見ると、ほんのひとつまみのものです。しかし、少しでも追分で学んだ事を種として、他人を思いやり、何事にも感謝する事が出来る英和生に成長してほしいと願っています。

OGとして参加して

津田塾大学四年 宇田川 博恵

(二〇〇四年 高等部卒)

夏の小学部 — 追分の生活 —
大自然の中で祈りある共同生活をする事で神さまを敬い、互いに助け合おうとする気持ちを育てるために、毎年小学部のすべての児童が軽井沢追分寮にて数日を過ごします。三・四・五年生の活動には、高校生や大学生のOGが数名一緒に参加し、子ども達の世話を手伝いながら交流を深めています。

親子で作るアドヴェントカレンダー

3歳児クラスでは、家庭でご家族と共にクリスマスを待てるようにと願い、親子でアドヴェントカレンダーを作り、お家に持ち帰ります。



カレンダーにぶらさげる24この玉を紙ねんどで作ります。

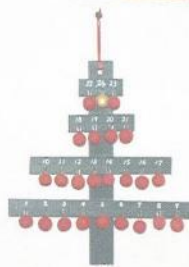
「今日はお母さんが切る番」…子どもたちは手を添えながらお母さんの様子をじっと見えています。



とん とん とん…くぎを最後まで打ち込みます。



ペンキを塗ります。そして、数日後に数字を書き入れます。



家庭では12月24日に金色の玉をさげます。園ではクリスマス礼拝の日に金色の玉をさげます。



次々に仕上がったカレンダーが並びます。お家には11月30日に持ち帰ります。

吾妻國年副院長が「東京都教育功労者」に

さる10月1日に都庁において、吾妻國年副院長が平成19年度東京都教育功労者に表彰されました。先生の35年にわたる教育への貢献に対するの表彰です。

永年勤続者表彰

創立記念日の11月6日、25年にわたってお勤めいただいた太田良子大学教授を学院より表彰いたしました。

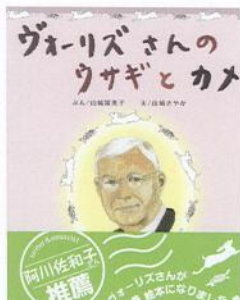
緊急地震速報受信機が設置されました

強い地震の発生を事前に知らせ、揺れが到達するまでの適切な対応によって被害が少なくなることを目的とした、緊急地震速報の受信機を幼稚園・小学部・中高部・法人本部に設置しました。学校施設としては全国でも早い時期での導入となります。

絵本に東洋英和の旧校舎が紹介されました

関西学院大学職員の山崎富美子さんが自費出版された絵本「ヴォーリズさんのウサギとカメ」に東洋英和の旧校舎がイラストで掲載されています。ヴォーリズの建築と思想、人となりがわかりやすく紹介されています。卒業生の阿川佐和子さんも推薦しています。

上ヶ原文庫 定価2,000円(税込)



絵画「わがモチーフたち」が寄贈されました

小谷明様より武蔵野美術大学名誉教授 松樹路人作「わがモチーフたち」が学院に寄贈されました。情操教育の一環として、大学院棟2階201教室の外壁に展示されます。



「わがモチーフたち」松樹路人 260×165cm

中高部バスケット部OG会より

「東洋英和バスケットボール部70年史(2,200円 送料込み)」が12月15日に発行されます。バスケットを通じて語られる英和の歴史です。ご希望の方は、ハガキに「バスケットボール部70年史希望」、お名前・ご住所・電話番号・卒業年・冊数とともに、「楓園を見て」とご記入の上、下記宛にお申し込み下さい。

(お申し込み先) 〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂2-24-9 高橋由利栄「バスケット部史」係(締め切り 12月25日)

告書を作成するというものです。今年度は、「パスファインダー（テーマに関する資料や情報を探すための手順を簡単にまとめたもの）」作りも行ってみました。

どうしても生徒達は、手軽なインターネットに、情報源を頼りがちです。学年があがるにつれ、図書室を利用する機会が少なくなる生徒もいます。専門家から直接、図書を利用した調査方法を学ぶことで、情報収集手段としての両者の特徴を理解し、テーマや目的に応じて、有効な使い分けができるようになることを目指しています。

これらの実習は、各種のレポート作成だけでなく、卒業後の様々な場面で役立っているようです。適切なテーマ設定、作成する文書のレイアウト構成、実習時間の配分などに工夫を加え、実習課題としてさらに熟成させていきたいと考えています。

高等部三年生

選択科目に、「情報A」の学習内容を発展させた「情報実習」を設置しました。プログラミングやハードウェアの組み立てなどではなく、英和生が得意な、＜画像や動画＞を中心とした実習に重点をおきながら、中高校での6年間をデジタルアルバムとして記録できるよう、楽しく学習しています。

また選択した生徒には、オープンスクールで情報科の体験授業「オリジナルうちわ作り」のお手伝いをしてもらいます。授業での成果を活かして、熱心にわかり易く説明しようと、一生懸命奮闘している様子は頼もしいかぎりです。



オープンスクール体験作品
裏面に自分のロゴを作成

情報科の悩みの一つに、限られた授業時間の中で、日々刻々変化する情報化社会の現状にどこまで対応できるかということがあります。年齢制限のあるソーシャルネットワーキングサービス（例 ミクシィ）の利用や、無料動画サイト（例 ニコニコ動画 You Tube）を安易に利用している話もよく耳にします。ブログあるいは携帯サイトでの公開プロフィールを持つ生徒が増加しているのも事実です。携帯電話の高機能化は、コンピュータよりも手軽にインターネットへ接続できる環境を、生徒に提供しています。高度情報化社会の恩恵を無防備に享受するだけでは、サイバー犯罪といわれる、情報をめぐるトラブルに巻き込まれる可能性もないとはいえません。ディスプレイの向こうに生身の人間がいて、それは善意の人ばかりではないということをしっかり見据えなければなりません。そのために＜情報を疑ってみる＞つまりは＜情報を吟味する＞力が必要ともいわれます。しかしその力は、特別なものではなく、日常の学校生活における友人や教師との信頼関係の中から、身につくものだといえるのではないのでしょうか。そういった点からも、教科「情報」が受け持つ学習内容は、日々「更新」していかなければならないと改めて肝に銘じているところです。



生徒作品

2003年から2005年の生徒の作品例です。（授業時に、研究会などで発表に使わせていただくことがありますとお断りしていますが、この場に掲載させていただいたことご承知ください。）



展示風景 2006年度の展示風景です。

情報科@5年目

新しい必修教科「情報」が誕生してから、早いもので5年目になりました。今年初めての教育実習生を迎え、来年にも1人予定されています。「情報って何を学ぶの?」という質問を受けることも大分少なくなってきました。

この間の生徒の技術の向上には目を見張るものがあります。学年行事・クラブ・クラスの係りとしての仕事を、気軽にコンピュータを使って行う生徒、授業で学んだ入口からさらに奥へと、好奇心一杯にトライする生徒の姿が多くみられるようになりました。

残念ながら、生徒用校内LANや普通教室へのコンピュータの普及はまだ未整備ですが、昼休みに、生徒が自由に利用している第二コンピュータ教室のパソコンを、入れ替えていただくことができました。

情報科の実習室としての第一コンピュータ教室に対し、第二コンピュータ教室は、「コンピュータのある普通教室」となるよう、機の配置を変え、パソコンをノート型にいたしました。授業で使われた先生方から、「生徒の顔がまっすぐ見えるので、授業がやりやすい。」との評価をいただいています。‘アクティブボード’という電子黒板も導入されましたので、ますます多様な場面で有効に利用されることでしょう。

このように充実していく設備をしっかりと活用できるように、今後も良い授業展開をしていきたいと考えています。今号では、コンピュータ教室や生徒作品展示風景の写真とあわせ、情報科の試みや授業の一端をご紹介しますいただきます。



新しくなった第二コンピュータ教室
教室のお披露目を兼ね、アクティブボードの使い方の説明会を行いました。先生方の関心が高く、機能を活かした授業が行われるようになりました。

中学部1年生

週2時間の技術・家庭科のうち1時間は、原則として毎週コンピュータ教室で行うようにしました。入学以前の体験差を配慮することと、中学1年時に基本的リテラシーが習得できるようにするため、教員2名による<TT方式>の授業形式で行っています。

「自分が得た情報を、善意で友人に知らせたら、それがチェーンメールだった。」「CDのコピーを友人にあげることは、著作権を侵害してしまうことだった。」「何気なくボタンをクリックしたら、高額請求が来てしまった。」「誰だかわからない人からのメールで、嫌な思いをした。」など、生徒達が巻き込まれるおそれのあるトラブルや問題は増えるばかりです。それらに対応する知識を十分備え、安心して、安全に情報機器を使うことができるよう学習計画を立てています。情報化社会の「モラル」を学ぶことを通して、実社会での規律や規範を再認識することができ、対面する人と人の関係の大切さに気付く良い機会ともなっているようです。

高等部1年生

必修科目「情報A」の授業では、パソコンを利用した多種類の実習課題を取り入れています。他校にない試みとしては、図書教諭(佐々木利絵先生)との合同企画授業があります。一人一人個別のテーマを、<図書>と<インターネット>を利用して調査し、報



第一コンピュータ教室
中1授業風景 後方の掲示は高一調査報告書

高一「架空雑誌の表紙制作」

「情報A」発足時からカリキュラムに取り入れている課題です。情報のデジタル化・情報の統合・情報の発信・著作権など、1年間で学んだ多くのことを、この作品作りを通して総復習することになります。高品質の用紙にインクジェットで印刷していますので、完成度の高い作品ができあがります。4月に比べて、「力がついた」ことへの達成感も味わっているようです。

単に画像としての見栄えだけを追及するのではなく、編集者として、雑誌の内容や表紙にこめた意図などを自分の言葉で表明しなくてはなりません。それらを記入した用紙と表紙が一緒に掲示されます。両方の内容を総合して、「目にとまる雑誌」、「手に取りたくなる雑誌」、「購読したくなる雑誌」の3段階にわけ、生徒による相互評価を行っています。外部の専門家の方や美術科の先生にも講評をお願いしています。毎年、2月下旬頃、高等部西館5階の廊下に展示していますが、生徒の興味や関心が表れるので、先生方にも楽しんでいただいています。



読売新聞英語版『THE DAILY YOMIURI』では月に一度『READERS FORUM』という投稿コーナーの特集を組みます。毎月様々なテーマが決められますが、6月は“What action would you take to realize a beautiful country?”「美しい日本を実現するためにあなたは何をしますか？」というテーマでした。そこで英和生51名が小論文をまとめ投稿にチャレンジしました。全国のたくさんの方の応募の中から35稿だけが紙面を飾りましたが、この厳しい競争の中でなんと英和生11人の投稿が見事選ばれ、6月30日付の新聞に掲載されました。

さらに6月の投稿と成果をバネにして7月に再度応募しました。テーマは「国民投票権をもつ年齢が20歳から18歳に下がったら」でした。英和生にとってピッタリなテーマということで応募しました。そしてまた見事に11名の投稿が7月29日付の紙面に掲載されました。(英和生の記事が掲載された新聞は横浜校地1号館2階のソレイシイ研究室にあります。ご興味がある方はどうぞいらしてください。)

今回のライティング学習は次のように進めました。

1. 各自が持ち寄った原稿をクラスメート同士で読み合う。
2. 通じ合うかどうか、わかり易いかどうかをクラスメート同士で確かめ評価し合う。(投票によりベストエッセイを選出。)
3. 先生やクラスメートのコメントをもとに、次回の授業までに書き直す。(全部で少なくとも3回は推敲することになります。)

学生の皆さんがこれまで一生懸命に取り組んできた英語といえば、ほとんどが「受験英語」だったと思います。ですから自分なりに英語を「使う」ということになることや最初は苦労しました。そこを乗り越える鍵は何でしょう。私は今回、まず自分の力で自分なりに10文以上(短文でいいから)書いてみることにしました。次にクラスメートという読み手を意識して、なるべくわかり易く表現し、何度も推敲して自分なりに工夫することを求めました。マスメディアへの参加ということも大いにモチベーションを高めたと思います。

今回残念ながら掲載には至らなかった学生の中にも実



学生のエッセイ掲載の『THE DAILY YOMIURI』

際の紙面を見て「すごい！私も今度は絶対に載るようなものを書きたい！」と意欲を見せてくれた人がいました。

下記のリストにある皆さんは決して全員が「英語好き」や「優等生」なのではありません。どちらかという普通の学生、中には「英語はすごく苦手」と言い切っている人もいたはずですが、にもかかわらず、よく頑張りました。苦手意識をもち苦戦している学生達による今回のような活躍こそが、教育者としての私の一番の大きな喜びです。

最後に、聖書の中から私の好きな言葉を紹介します。

“What so ever you do to the least of my brothers and sisters, that you do unto me.” マタイによる福音書 25章40節

6月30日付掲載分 タイトルと投稿者氏名

1. Assist poorer nations /Ayaka Nezu
2. Be proud of Japan, and kind /Miki Kono
3. Take an interest in politics /Kumiko Endo
4. Expand parks, widen roads /Wakaba Sakai
5. Love traditional Japan /Miwa Takehiro
6. Help women to have more kids /Asami Tsuneshige
7. Be friendly to others /Yukiko Tsuda
8. Learn “Edo shigusa” /Akari Onodera
9. Teach human relations /Erika Itagaki
10. Help workers raise children /Ayako Hidaka
11. Learn from Tora-san /Shiori Matsuya

7月29日付掲載分 タイトルと投稿者氏名

1. Campaigning style may change/Kayo Takeuchi
2. Raise interest in politics first/Ichie Sugiyama
3. Change Juvenile Law as well/Rei Yanagimoto
4. Enthusiastic teaching essential/Ayana Kage
5. 2 sides of the coin/Kanako Iuchi
6. Dramatic change possible/Tomomi Nakano
7. Young people bring change/Ai Kikuchi
8. Change their consciousness/Misato Tanikoshi
9. Listen to young people/Reina Fukuda
10. Ambivalent reactions/Reihi Anzai
11. Youth must accept responsibility/Sumie Kido

掲載されたエッセイの一例 国際社会学部 1年 木戸純枝

Youth must accept responsibility

I am an 18-year-old university student, dependent on my parents economically. However, I am interested in politics. For example, I have some opinions about the education system. It is adults that make decisions with regard to the education system. Japanese society can change if the opinions of people who are now receiving education at school are taken into consideration.

If people can start voting at the age of 18, a lot of young people will think about politics. This will make Japanese society more active. I think that it is wonderful that my opinion will be taken into account in setting policies for the future of Japan.

It is the responsibility of young people to make the future of Japan brighter. Can 18-year-olds assume this responsibility? We should seriously think about politics when we become eligible to vote.

SUMIE KIDO

二〇〇七年度 前期 大学院学位授与式

九月二日(土)、

大学院の学位授与式が挙行されました。今回修士の学位を授与されたものは、人間科学専攻 5名、国際協力専攻 5名、国際協力研究科国際協力専攻2名。学長は式辞で、仕事をしながらの勉学であったが、目標を達成されたことでこれからの歩みの自信と自信と推測する、本大学院で学んだことを社会貢献のために生かしてほしい、と述べました。長野賞は「がが女性の発達に及ぼす影響」について自らも病と戦いながら、論文にまとめた真家年江さんと「日本の地域社会における国際協力NGOの役割と展望」を研究した井上団さんに贈呈されました。



修了パーティーには、ご家族も出席されました。社会人でありながら勉学することは家族の協力なしには出来ず、今回の学位授与は家族の喜びでもあることを確認する時となりました。出席した修了生全員による恒例のスピーチでは、舞台俳優として活躍する、研究を続ける、国際協力の活動を続ける等、今後の歩みが語られました。それぞれの歩み道は違っても、大学院での学びが、仕事だけでなく、これからの人生に大いなる糧となることは間違いないということが語られ、印象的でした。

現代史研究所講演会開催

視野ひろく

子どもと家族をとらえて

現代史研究所では、今年度第一回の講演会を七月一九日(木)に横浜キャンパスで開催しました。湯沢雅彦お茶の水女子大学名誉教授による「世界の子供と家族」との演題で本学学生と一般参加者が約一五〇名参加し、和やかな盛会となりました。

一時間半にわたるお話は、湯沢先生が世界各国を歴訪された折にご自身で撮影された写真を映写しながら、特に北欧諸国を中心にそこでの家族事情・子育ての事情などを紹介、日本と比較するものでした。

デンマークは、とくに湯沢先生が本学教授としてご在職中に川崎末美人人間科学部教授(現職)とともに、本学の研究助成によって家庭にホームステイしながら調べられたものです。その詳しい内容は「少子化を乗り越えたデンマーク」(朝日選書)にまとめられています。

小学校の放課後の遠足に同行したところ、文字通り公園までただ一時間以上も歩くのみ、公園についても遊具もなく森の木や岩の周りで子ども達が遊び、大人はただそれを見ながら雑談をするという素朴な生活を愉しむものだったこと、学校帰りの親の迎えを待つ子ども達に校庭でクレープを焼く世話をするボランティアなど、地域の大人が子どもとの生活に時間をたっぷり割く様子がわかり、「デンマークは国民がそのような生活を選び取った」との湯沢先生のお話が印象的でした。

保育子ども研究所

本年二月に開所した東洋英和女学院大学保育子ども研究所、通称子どもセンターは、横浜キャンパス二〇号館二階にプレイルームと研究所事務室を新装し、四月から念願の事業をスタートしました。実施プログラム、今年度の主な事業は以下のとおりです。

★「親子プレイルーム」春季

火曜日午前
五月八日～七月一日 一〇回
参加者 親子五組 プレイルーム

★「親子プレイルーム」秋季

火曜日午前
一〇月二日～二月一日 一〇回
参加者 親子一四組 プレイルーム

★第一回「保育子どもセミナー」

・ 二月二六日(水)一〇時～一八時
・ 二七日(木)一〇時～二時三〇分
会場 六本木キャンパス大学院
・ 講師 福岡伸一(青山学院大学教授)
松居 直(児童文学者)
森上史朗

・ 費用 資料代他 千円
ハガキにて申込受付
(子どもと保育総合研究所代表)



問い合わせ先 FAX 045-922-7718

生涯学習センター 六本木キャンパス 2007年度 冬学期開講講座のご案内

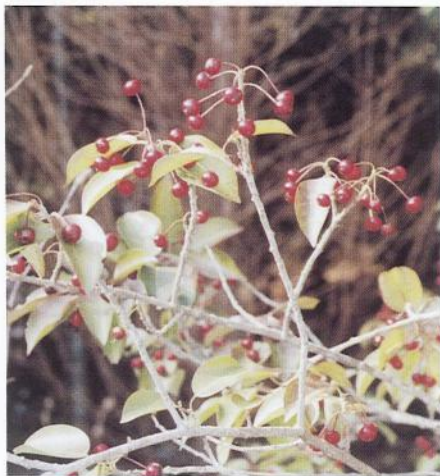
英語の翻訳	1/8より火曜日11:00~12:30	講師 山岡清二
時事英文の読解	1/8より火曜日14:00~16:00	講師 山岡清二
ジェイン・オースティン・クラブ	1/10より木曜日11:00~12:30	講師 太田良子
イギリス短編小説の楽しみ	1/10より木曜日14:00~15:30	講師 太田良子
アメリカ小説に探る 家族と私	1/11より金曜日10:40~12:10	講師 山本豊子
キリスト教信仰入門	1/11より金曜日14:00~15:30	講師 原島 正
バイブル・クラス	1/16より水曜日15:00~16:30	講師 Zenora Rackham
声と心身共の健康	1/18より金曜日10:30~12:00	講師 高井敬子
世界をめぐる花の旅	1/23より水曜日13:00~15:00	講師 藤井晶子

問い合わせ先 生涯学習センター事務局 TEL 045-922-9707

英和の植物通信

～目を近づければ楽しさ無限～ No.10

絵・文・写真：中池 敏之
 (大学非常勤講師：博物館概論等担当)
 (生涯学習センター講師)

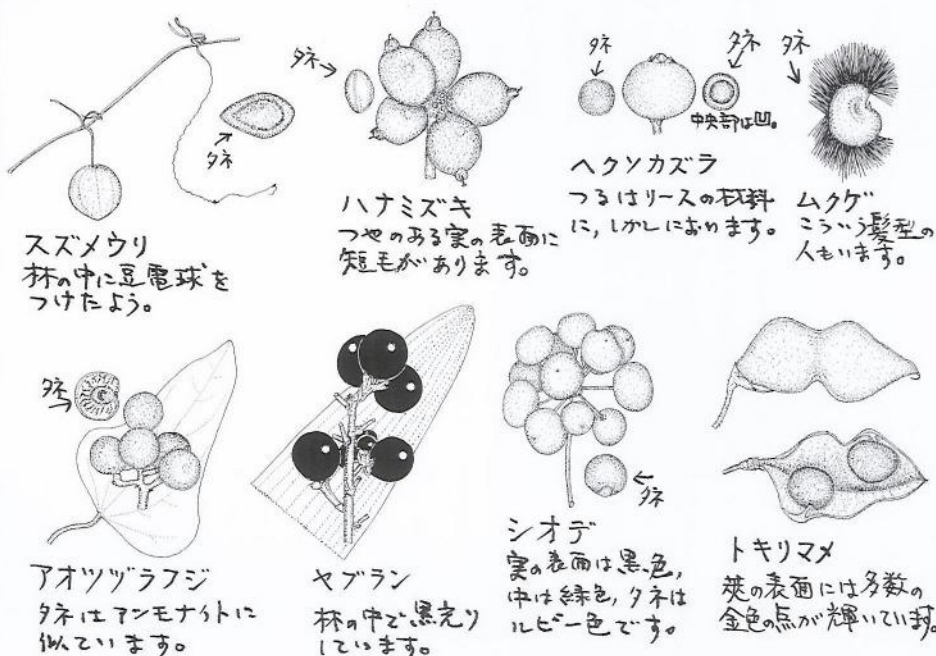


ソヨゴ (横浜キャンパス)

ソヨゴ (冬青)

冬枯れした時期の常緑樹は気持ちを和ませる。さらにその木に、それも赤い実がなっているとなんとも嬉しい。ソヨゴの実はいさしが葉の緑と上手に調和している。この木の枝をもって揺ると葉と葉がこすれてそよぐ。見て楽し、聞いて楽しの木である。

この時期、キャンパスでは、白いスズメウリ、真赤なハナミズキ、黄褐色のヘクソカズラの実、形を見て思わず顔がほころぶムクゲやアオツツラフジのタネ、黒いヤブランやシオデの実、莢は紅色で中のタネは黒いトキリマメなど多彩である。冬の実の小鳥や人へのすてきな贈り物。さあ、探してみましょう。

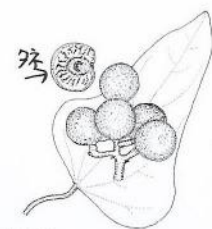


スズメウリ
杯の中に豆電球を
つけたよ。

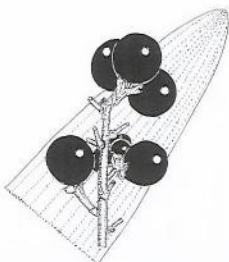
ハナミズキ
つやのある実の表面に
短毛があります。

ヘクソカズラ
つるはリースの材料
に、しかりにふります。

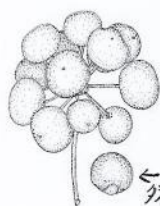
ムクゲ
こらう髪型の
人もいます。



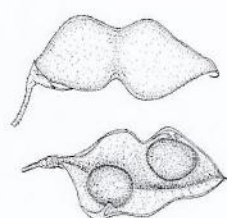
アオツツラフジ
タネはマンモナイトに
似ています。



ヤブラン
杯の中が黒クッ
ています。



シオデ
実の表面は黒色、
中は緑色、タネは
ルビー色です。



トキリマメ
莢の表面には多数の
金色の点が輝いてお
ります。

学院史料展示のご案内

前号の楓園でお伝えした学院本部・大学院棟1階ロビーでの学院史料展示コーナーが11月6日にオープンしました。学院の123年にわたる歴史を語る年表や学院創立者カートメル先生の紹介パネルなどが展示されます。今後は様々なテーマで英和をめぐる史料が公開される予定です。是非お立ち寄りください。



東洋英和女学院学院報 楓園 第50号

発行日：2007年11月20日
 編集：学院報編集委員会
 発行：学校法人 東洋英和女学院
 東京都港区六本木5-14-40
 TEL 03-3583-3325
 メールアドレス
 koho@toyoeiwa.ac.jp
 ホームページアドレス
 http://www.toyoeiwa.ac.jp/

- 東洋英和女学院では学院各部におきまして、以下の日程でクリスマス礼拝・関連行事を行います。(青字の行事は一般公開です)
- 東洋英和幼稚園
- ★二月五日(水) 母の会アドヴェント礼拝・祝会
 説教者 吾妻國年 副院長
 - ★二月三日(木) 幼稚園(母子)アドヴェント礼拝
 (アドヴェント期間中は子どもとの音楽会やおはなし会なども楽しみます。)
- 小学部
- ★二月三日(月) クリスマスツリー点灯式
 - ★二月四日(火) 母の会クリスマス礼拝
 説教者 眞壁 巖 牧師(相愛教会)
 - ★二月五日(土) むかえようクリスマス
 一四時より小学部講堂にて
 (室内履きをもう用意ください。未就園児の入場や途中での入退場はご遠慮ください。)
 - ★二月九日(水) 小学部クリスマス礼拝
 説教者 吾妻國年 副院長
- 中高部
- ★二月三日(木) 母の会クリスマス礼拝
 説教者 吾妻國年 副院長
 - ★二月八日(土) クリスマス音楽会
 一三時・一五時より新マーガレット・クレイク記念講堂にて(九月、一二月の学校説明会でアンケートを提出された五・六年生に案内状をお送りします。)
 - ★二月二〇日(木) 中学部クリスマス礼拝
 高等部クリスマス礼拝
 説教者(高等部) 八木浩史 牧師 眞沢教会

- 大学
- ★二月六日(金) チャペルコンサート
 出演 スコット・シヨウ(オルガン)
 一七時開場・一七時三〇分開演
 - ★二月八日(水) アドヴェント夕礼拝
 一七時三〇分開場・一八時一〇分開演
 - ★二月二日(金) クリスマス礼拝
 説教者 常務理事 大宮 溥 牧師(成瀬が丘教会)
 一七時三〇分開場・一八時一〇分開演
 (横浜校地礼拝堂にて。すべて入場無料予約不要です。)
- 大学付属かえで幼稚園
- ★二月四日(金) 三歳児クリスマス礼拝
 一〇時三〇分より
 - ★二月八日(火)・一九日(水)
 四・五歳児クリスマス礼拝 一七時より
 - ★二月二〇日(木)
 かえで幼稚園卒業小学生クリスマス礼拝
 一五時三〇分より
- 全学院
- ★二月七日(金) クリスマス礼拝(全学院教職員対象)
- 同窓会
- ★二月一日(土) クリスマス礼拝
 一三時三〇分より
 六本木校地中高部小講堂(六階)にて
 説教者 井上とも子 牧師
 (むかし小山教会 小学部四年生まで在籍・チェロ奏者)
 それぞれ詳細につきましては、各部におたずねください。

クリスマス行事のお知らせ